



ヤシマキザイのチカラ
つねに、一歩先へ。

2020年3月期 第2四半期

決算説明会資料

株式会社ヤシマキザイ

2019年11月25日

(会場：公益社団法人日本証券アナリスト協会)

1. 会社概要	P. 2
2. 特長と強み	P.13
3. 事業環境	P.17
4. 成長戦略	P.21
5. 2020年3月期	
第2四半期 決算概要	P.25
6. 2020年3月期	
通期業績・配当予想	P.30



1. 会社概要

1

鉄道業界をメインフィールドとし、鉄道という特殊な条件に適合する商材やサービスを提供する専門商社

2

3現主義を基軸にした、国内での取引先との強固なリレーションシップにより、国内の鉄道業界を支える重要なポジションを確立

3

鉄道関連事業への業容拡大、公民鉄への販路拡大、グローバル化の促進を通じ、中長期的な成長を目指す

社名	株式会社ヤシマキザイ 【英文名】Yashima & Co.,Ltd.				
本社	東京都中央区日本橋兜町6番5号				
代表者	代表取締役社長 高田 一昭				
設立	1948年10月28日				
資本金	9,990万円				
従業員数	264名 (2019年9月末現在)				
事業内容	鉄道関連製品と産業用電子部品の販売、メンテナンスサービスおよび輸出入				
連結子会社	名称	住所	資本金	事業内容	議決権の所有 (又は被所有)割合
	ヤシマ物流株式会社	東京都中央区	40,000千円	鉄道事業、一般事業	100.0%
	亜西瑪(上海)貿易有限公司	中国上海市	1,000千US\$	鉄道事業、一般事業	100.0%
※両社とも特定子会社 ※有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。					
海外拠点	インド支店、ミャンマー支店、ハノイ駐在員事務所、ジャカルタ駐在員事務所、マニラ駐在員事務所、ロンドン事務所 ■上海会社(現地法人)：上海・青島・深圳				

年月	概 要
昭和23年10月	香西角三郎他 6 名を発起人とし、資本金25万円で東京都中央区に 八洲器材株式会社 として設立
昭和26年 8 月	振興造機株式会社（現 神鋼造機株式会社）と代理店契約を締結
昭和37年 4 月	株式会社日本エヤーブレーキ（現 ナブテスコ株式会社）の販売代理店となる
昭和40年10月	株式会社日立製作所「鉄道車両用品」の旧国鉄向け販売代理店となる
昭和46年 8 月	神鋼電機株式会社（現 シンフォニアテクノロジー株式会社）の販売代理店となる
昭和52年10月	日本航空電子工業株式会社「コネクター及び同関連製品」の特約店となる
平成 2 年 4 月	小糸工業株式会社（現 コイト電工株式会社）「鉄道車両部品」の特定地区向け代理店となる
平成 7 年 4 月	東京都中央区に子会社ヤシマ物流株式会社設立（100%出資）
平成16年 4 月	中国現地法人 亜西瑪（上海）貿易有限公司を設立（100%出資）
平成20年 1 月	三友物産株式会社を子会社化（100%出資）
平成23年10月	日立三菱水力株式会社「水力発電システム」の販売代理店となる
平成25年11月	本社を現所在地に移転（東京都中央区日本橋兜町 6 番 5 号）
平成25年12月	当社の商号を 株式会社ヤシマキザイ に変更
平成29年 4 月	三友物産株式会社を吸収合併
令和元年 6 月	東京証券取引所 市場第二部 に上場

■ 1948年に設立、旧国鉄との取引から始まり70年、鉄道の発展に寄与し成長

ヤシマキザイ主要商材

<インバータ装置>



<座席>



<情報通信・制御機器>



<検測車>



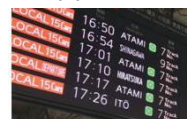
<ドア開閉装置>



<速度発電機>



<運行管理システム>



代表取締役社長
高田 一昭
<2014年就任>

<エンジン部品>



<コネクター>



第2の創業

'03 秋田

'04 上海

'11 ロンドン
'11 ハノイ

'15 ジャカルタ

'17 インド

'18 ミャンマー

JR・電車の歴史



【国内拠点】

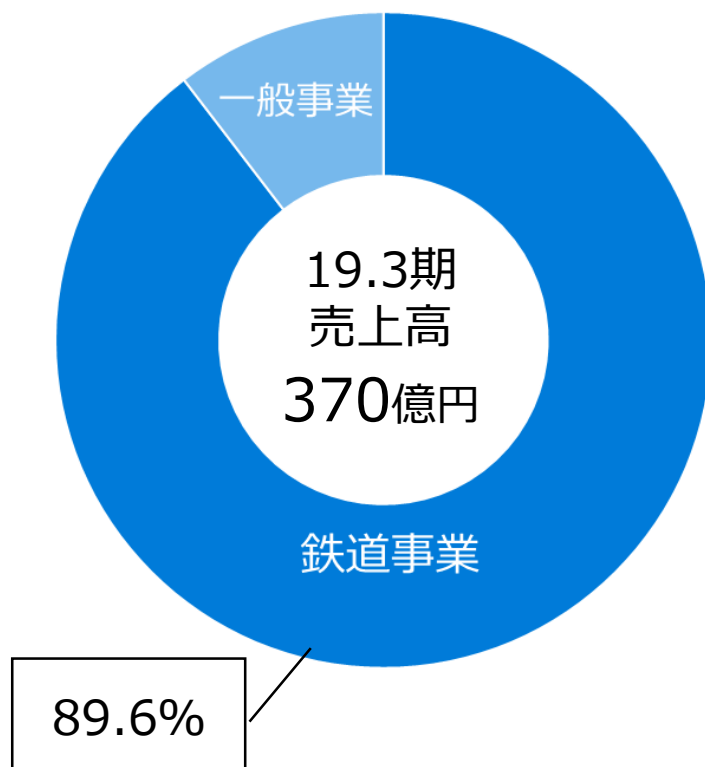
'51 札幌
'51 大阪
名古屋
仙台
広島
水戸
川崎
高松
九州
静岡

【海外拠点】

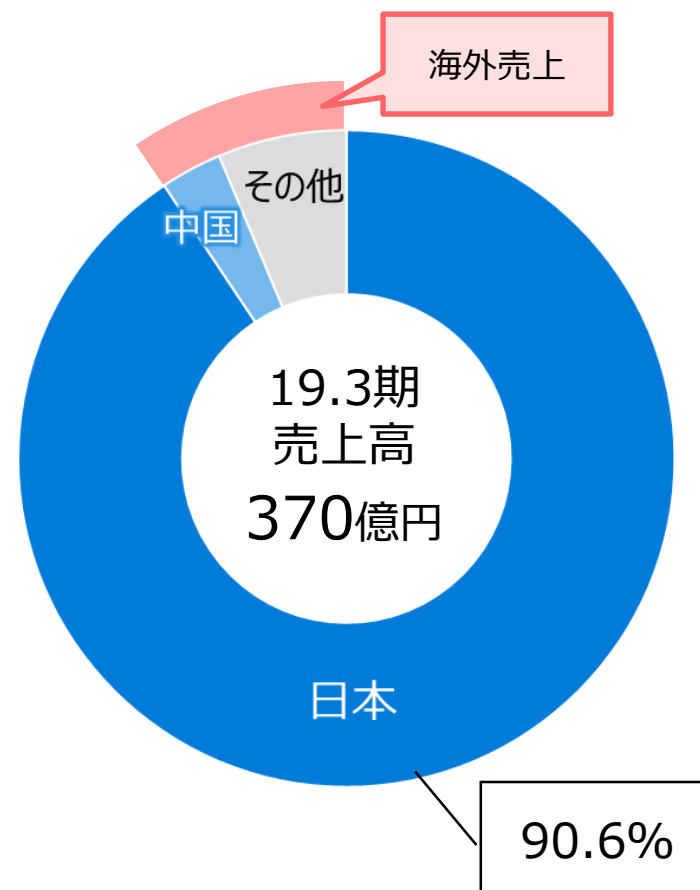


■ 鉄道車体用品、電気用品等の販売のほか、電子部品等の販売

セグメント別 売上高構成比



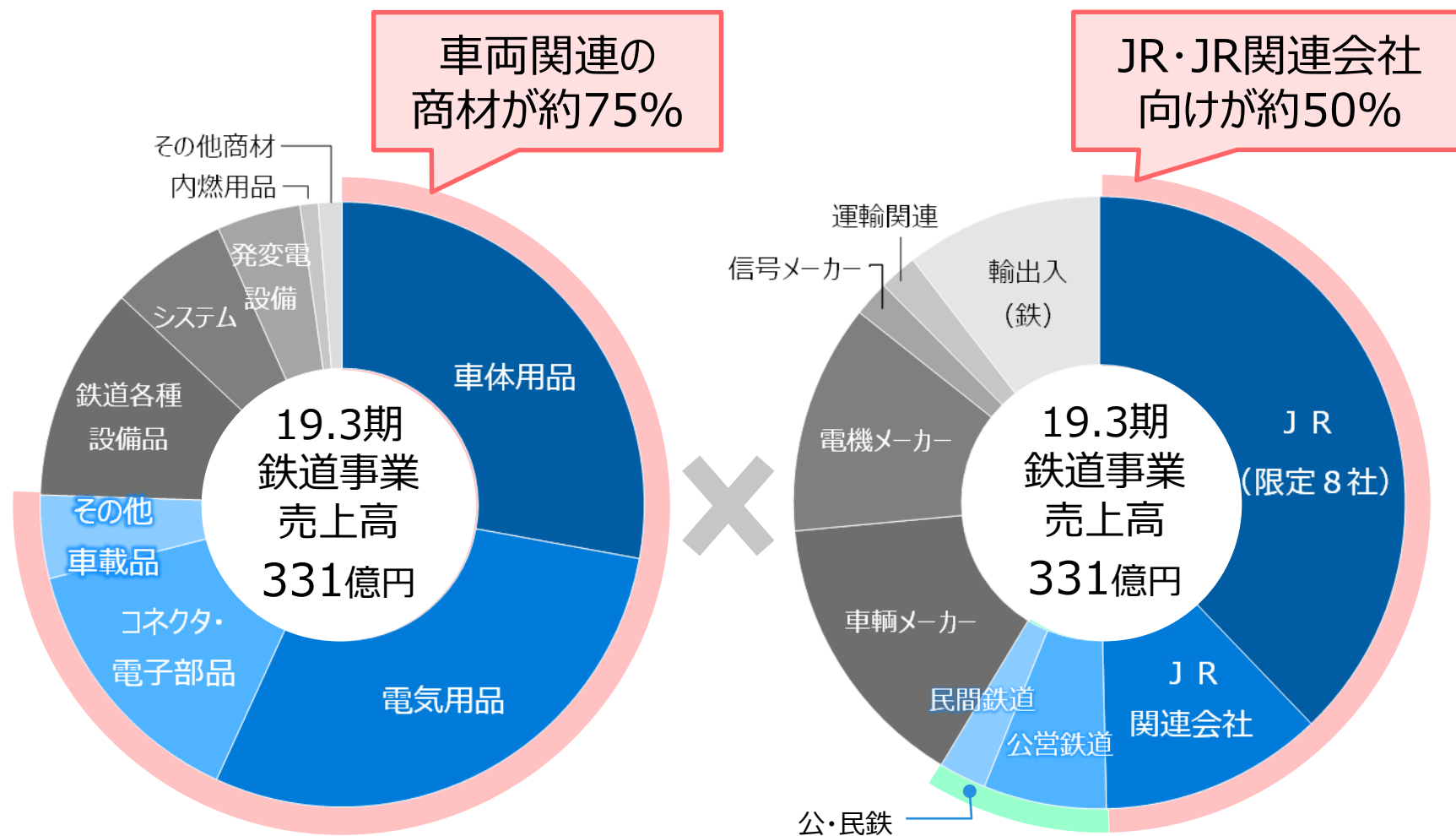
地域別 売上高構成比



■ 鉄道という特殊な条件に適合する**9**商材を**9**業界へ提供

9商材別 売上高構成比

9業界別 売上高構成比



■ 車両周りをメイン分野とし、幅広い鉄道関連事業を展開

車体用品



ブレーキ制御装置



ドア開閉装置

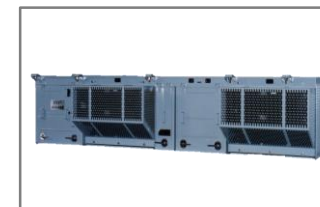


表示器

電気用品

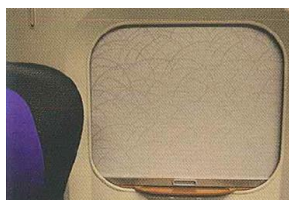


速度発電機

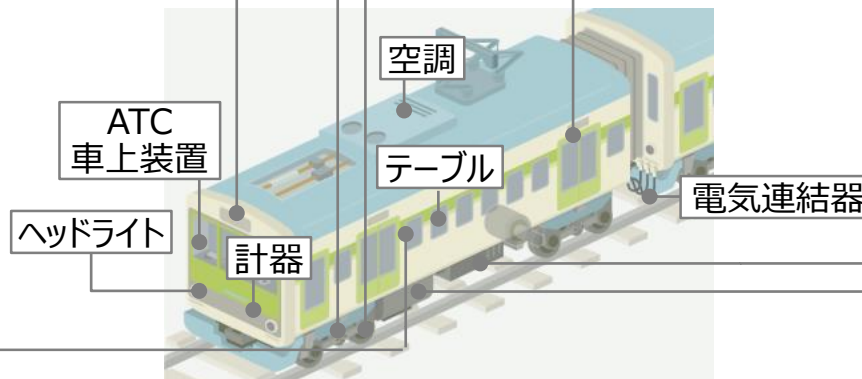


鉄道車両用インバーター

その他車載品



ロールカーテン



コネクタ・電子部品



車両用コネクタ

各種設備品



簡易型輪重測定装置

システム



運行管理システム

内燃用品



鉄道用エンジン部品

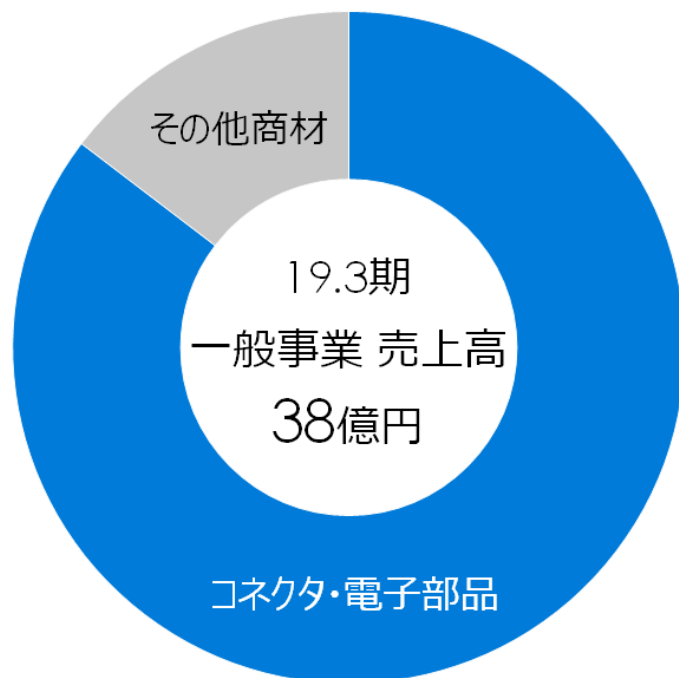
発電設備



変電所設備

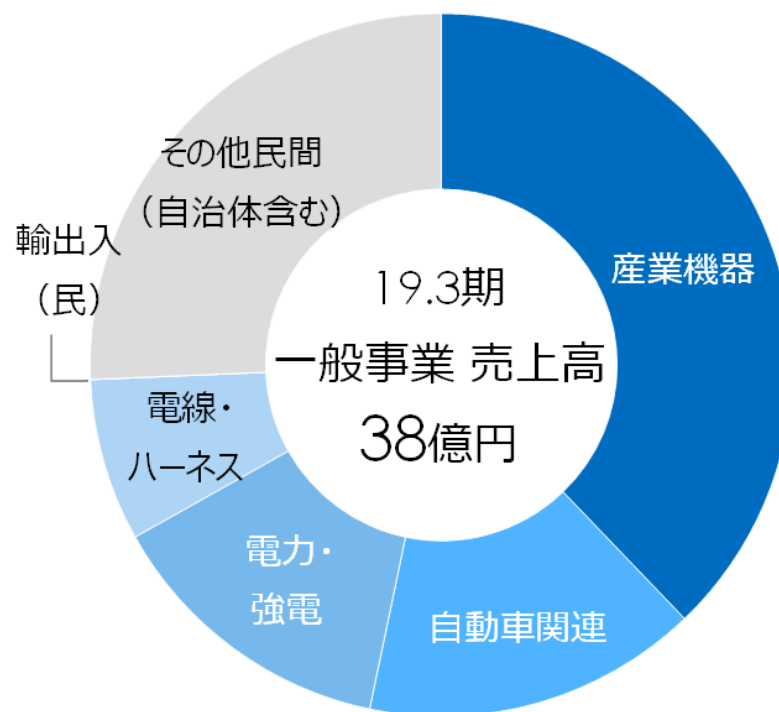
- 鉄道事業の販売先以外の**6**業界へ、主にコネクタ・電子部品などを販売

商材別 売上高構成比



84.9%

顧客業界別 売上高構成比



■ 鉄道事業以外の販売先を対象に、主にコネクタ・電子部品などを販売

電力・強電



EV充電器・
充電スタンド



電力用コネクタ



産業機器用コネクタ



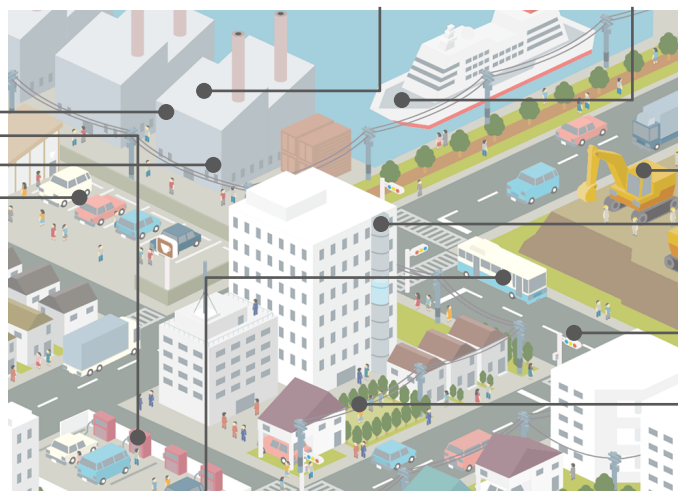
船用コネクタ



エレベータ用コネクタ



建機用コネクタ



ウルトラファインバブル
生成装置



自動車用ミラー



自動車用コネクタ



電線



ハーネス

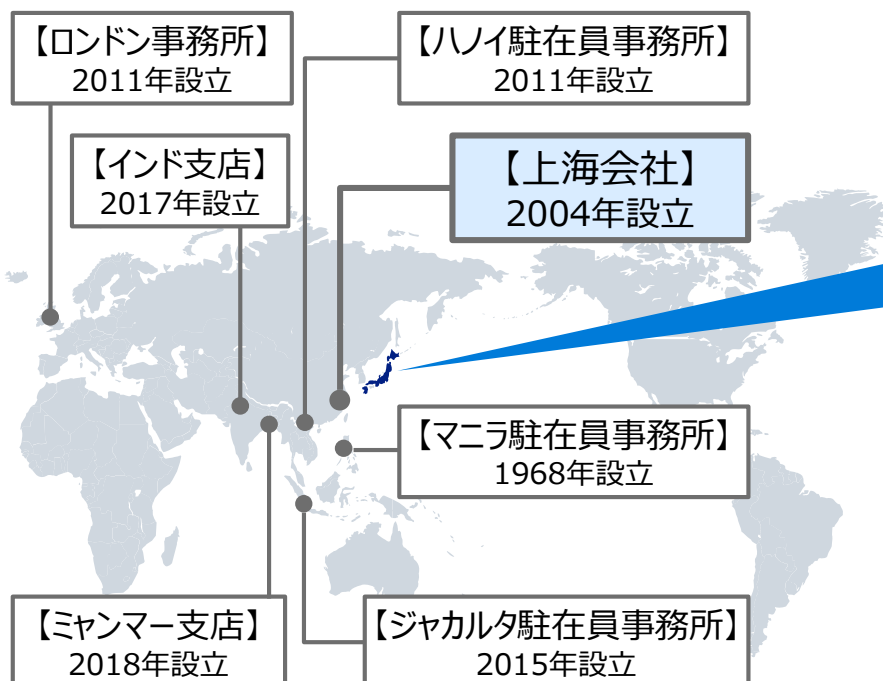
自動車関連

電線・ハーネス

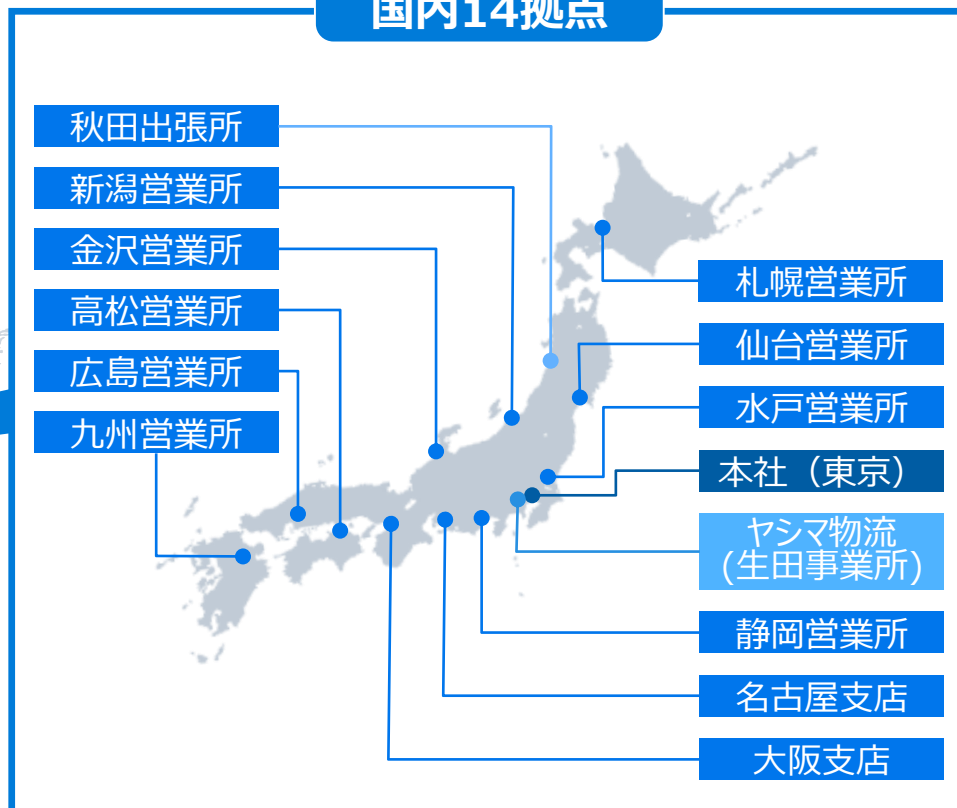
■ 日本全国を唯一網羅する14拠点に加え、急速に海外への展開を進める

海外7拠点

■ 連結子会社 □ 支店・駐在員事務所



国内14拠点

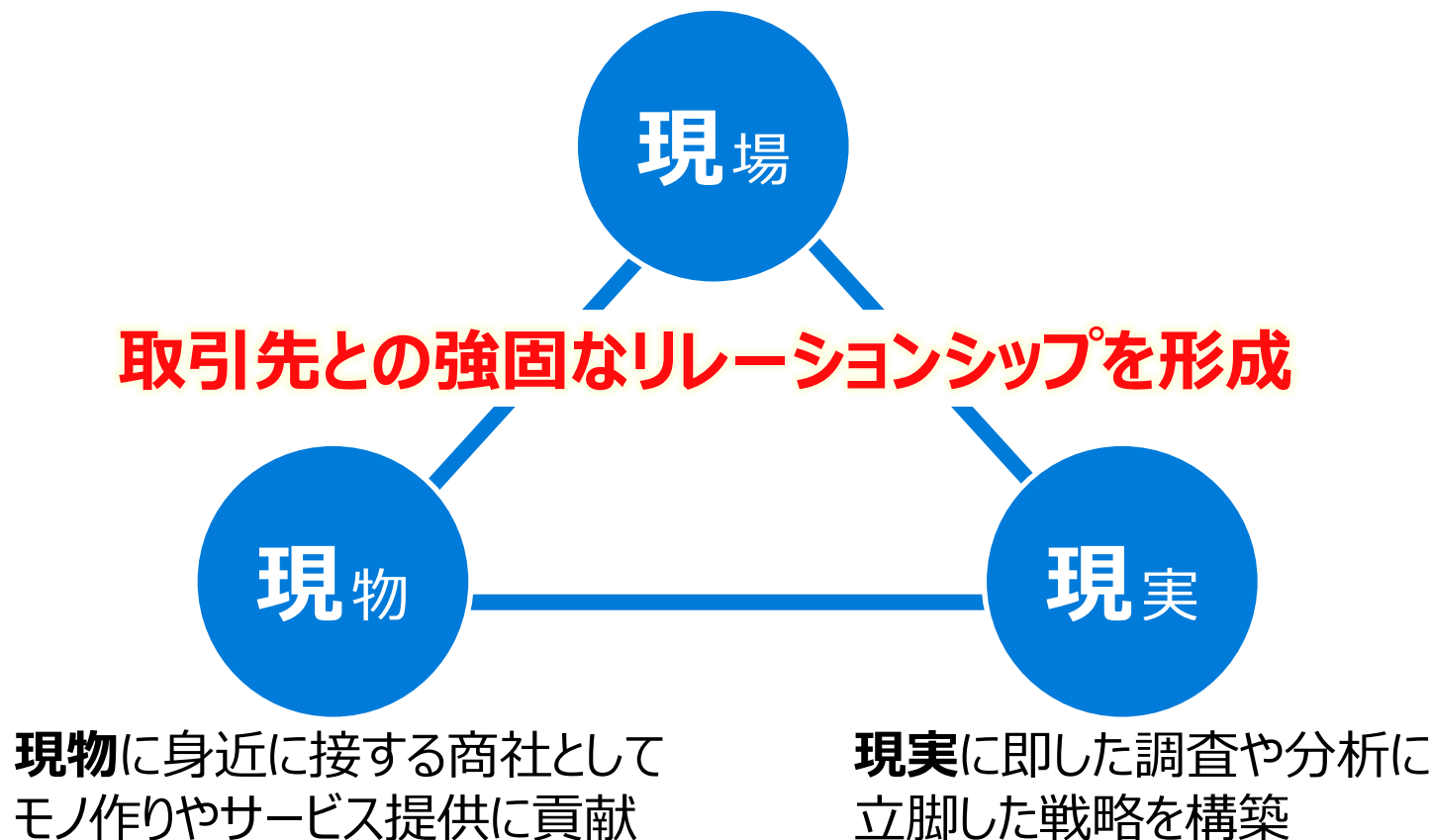


2. 特長と強み

■ 3 現主義とは・・・

- ・ 顧客の**現場**に足を運び、**現物**に触れて、**現実**を知り、**現場**のニーズをくみあげて仕入先に展開し、ソリューションを組み立てる

現場の声を全国展開のサービス網を通じて営業活動に反映



創業以来**70**年、**3現主義**で築き上げた**取引先**との**強固なリレーションシップ**

1 高い専門性と3現主義に根差した商社機能

・鉄道業界のワンストップ・ソリューションとして、存在価値を発揮

鉄道という**特殊**な条件下で専門性を有し、**国内外の拠点**を通じて
現場の要求や課題を取得、約**600社**の仕入先・メーカーのパイプ

2 業界で唯一、北海道から九州まで、全国を網羅するサービス網

・業界で唯一全国をカバーする現場力で差別化

大手企業ではカバーできない**小回りの良さ**
現場密接を活かし、**現場のニーズに根ざした**新商材・サービスを提供

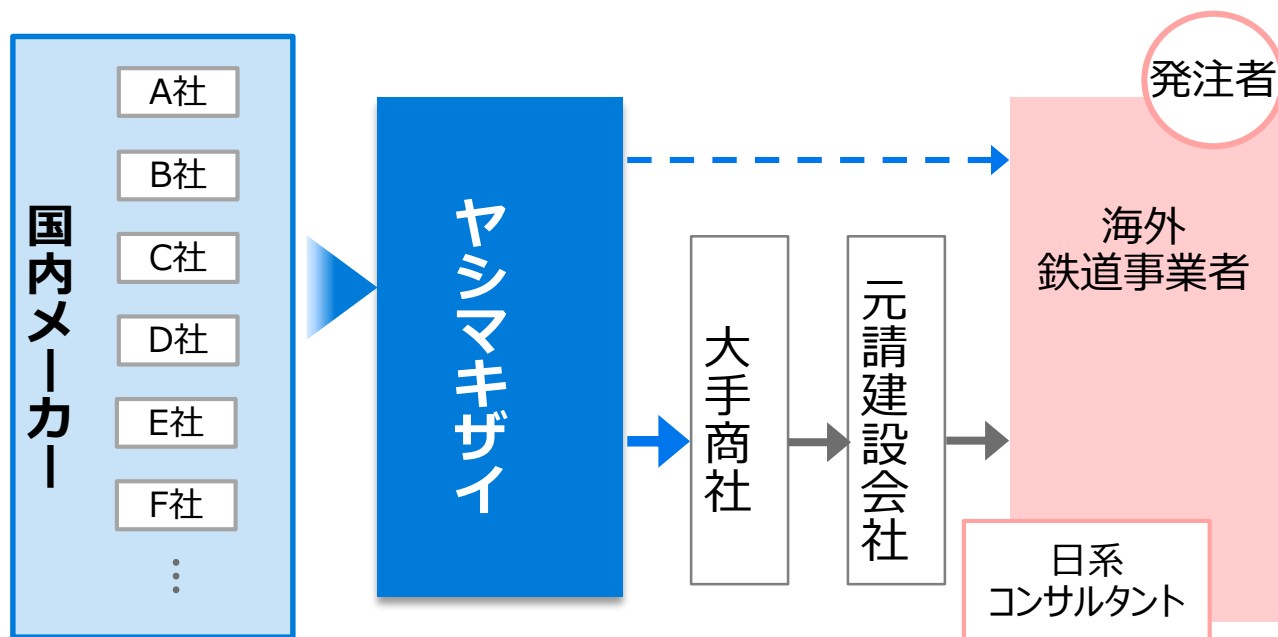
3 鉄道業界の水先案内人としての海外展開力

・海外の鉄道インフラ整備や特殊車両等の販売で実績

- 鉄道インフラ整備や特殊車両等の販売で、国内メーカーと海外の鉄道事業者等を結びつける

◆ ODA案件等で仕様交渉と商流構築力を実践

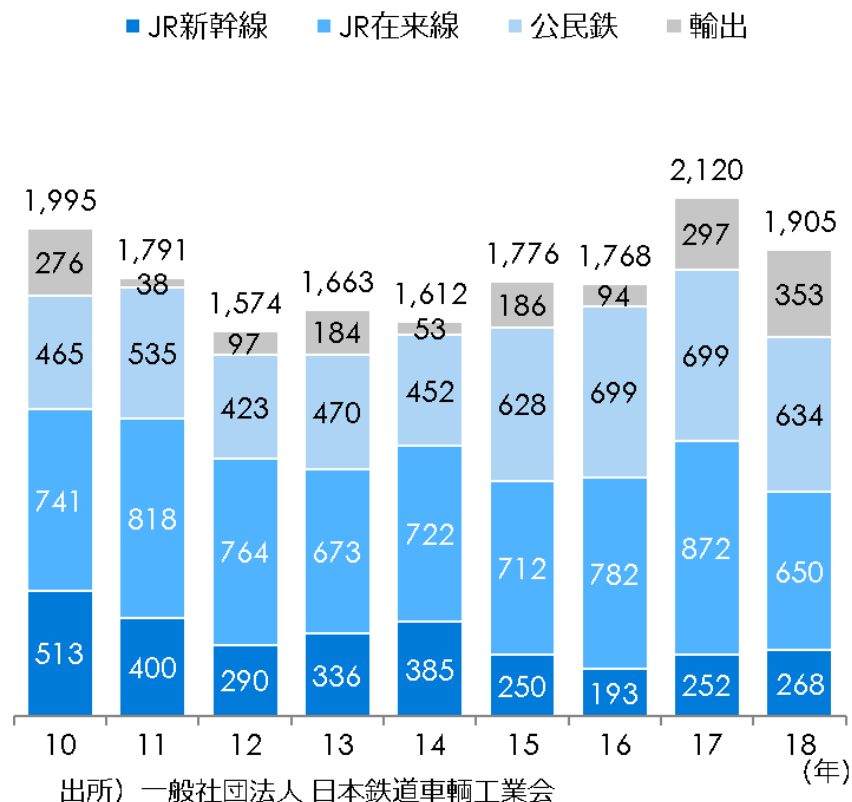
- 仕様や納期について難しい調整をクリア
- 大手商社にはない中小メーカーとのパイプが決め手
- 国内メーカーとエンドユーザーの間でオーガナイズ機能を発揮



3. 事業環境

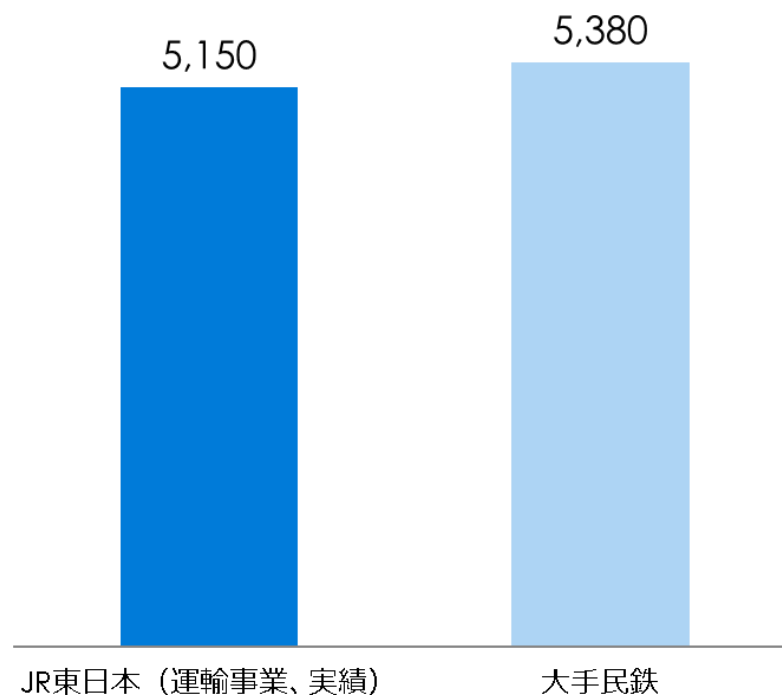
■ 車両生産推移から、当面現状の市場規模を維持すると思われる

年度別需要先別鉄道車両生産実績 (単位：両)



■ 大手民鉄の設備投資額合計はJR東日本に匹敵、大きな鉾脈

2019年度設備投資計画 (単位：億円)

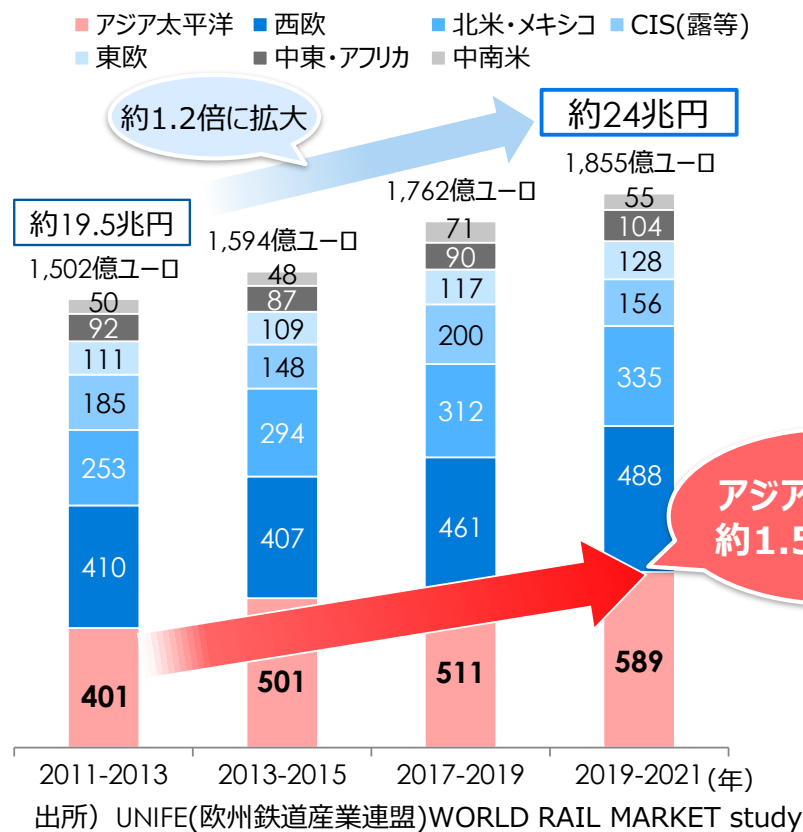


出所) JR東日本決算資料、
「大手民鉄の素顔2019」(社)日本民営鉄道協会

■ アジア太平洋、西欧がけん引役となり、グローバル市場は成長

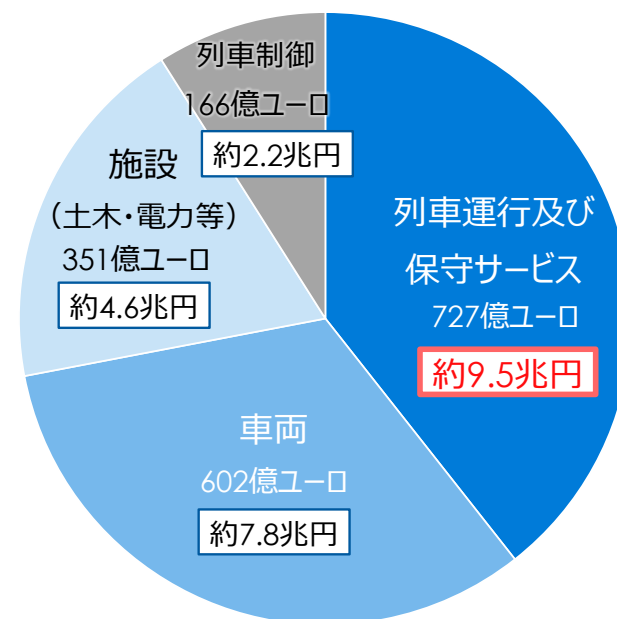
車両の占める割合は約30%、インフラ構築やメンテナンス、システムが約70%

鉄道産業の地域別市場規模推移 (億ユーロ)



鉄道産業の業態別市場規模の推計値

※2019-2021の年間平均値

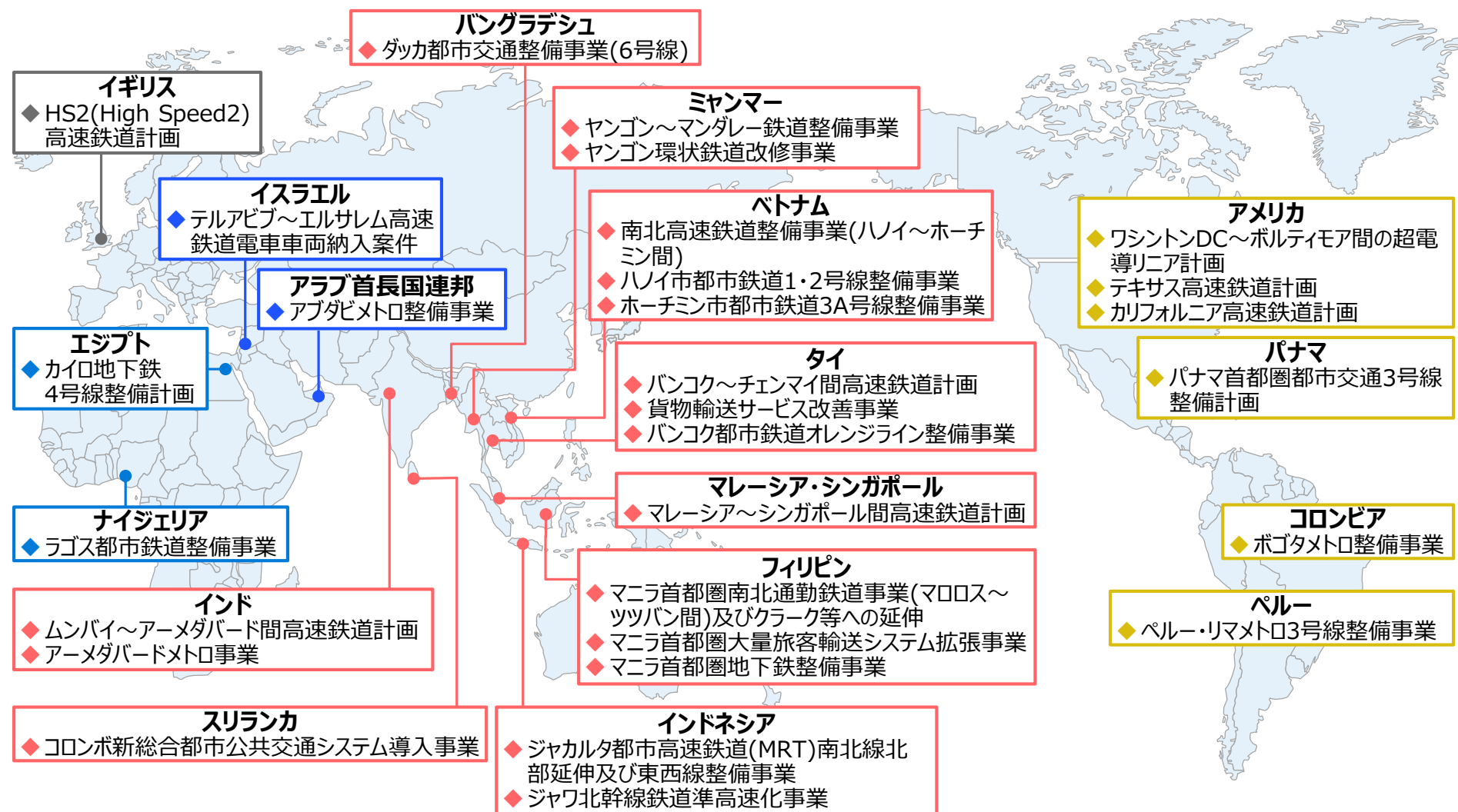


※ 1ユーロ = 130円で換算

出所) UNIFE(欧州鉄道産業連盟)WORLD RAIL MARKET study

■ 今後数年間の注視すべきプロジェクト

出所：国土交通省「インフラシステム海外展開行動計画2017」



4. 成長戦略

1 既存事業の強化

▶ 安定的経営基盤の強化・効率化

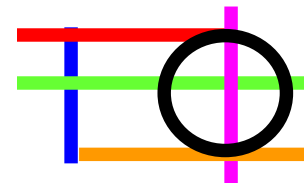
- ・メインの収益基盤「JR車両関連」における拡販
- ・「公営鉄道、民間鉄道」分野への一層の注力
- ・新設計、仕様変更、スペックインに参画



新線、更新需要など
新造車両の案件



性能向上・延命
改造などの案件



大手民鉄16社
関西地区に注力

鉄道事業者

当社

サプライヤー

2 新領域・付加価値アップ

▶ 検修設備や保線など車両周辺領域への展開

- ・導入事例を基に各鉄道事業者への水平展開
- ・提案型の営業展開による付加価値アップ

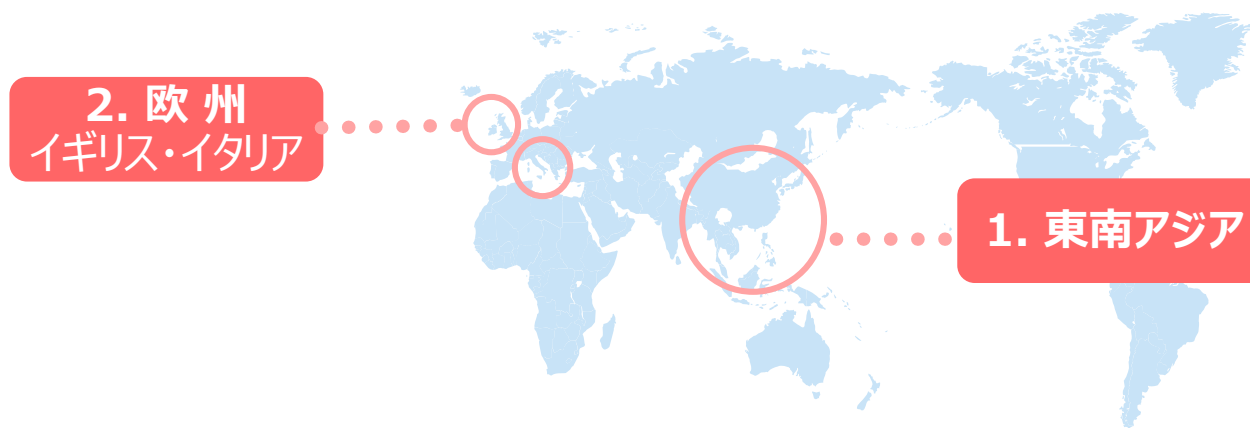


3

グローバル市場の開拓・
グローバル化の促進

東南アジア・欧州での商圈拡大

・東南アジアと欧州に注力し、商圈の拡大を目指す



・ODA案件をはじめ、鉄道インフラ整備や車両部品販売などで業容を拡大

ODA 案件

鉄道インフラ構築

- JV傘下で検修設備案件などの取りまとめを図る
- 中期案件として対応

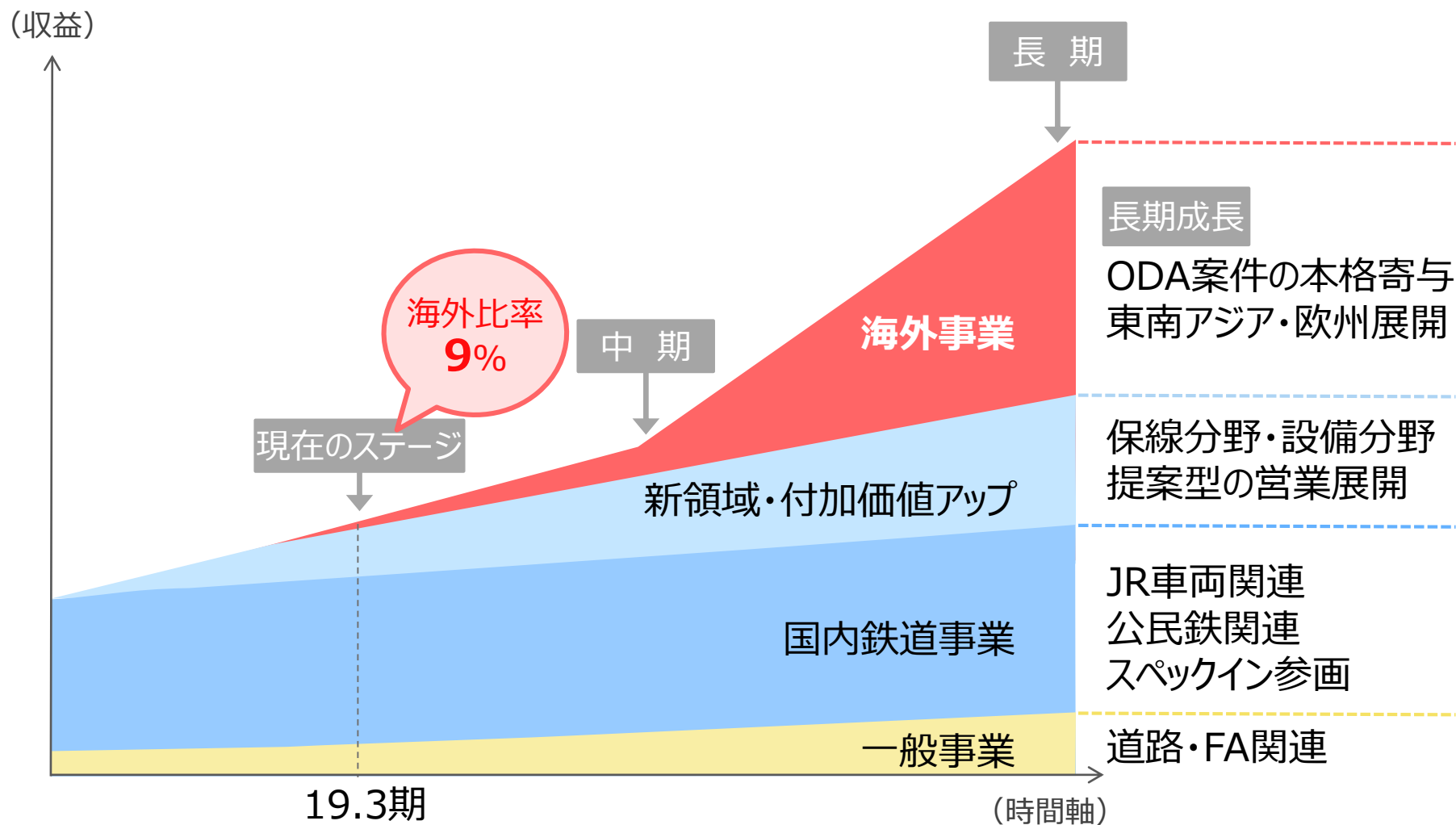


ODA 後

運行、保守・メンテナンス

- 納入先、納入元企業とのリレーション構築し、納入設備の維持をフォロー
- 長期的なビジネス対応

■ 鉄道専門商社として持続的成長を目指す





5. 2020年3月期 第2四半期 決算概要

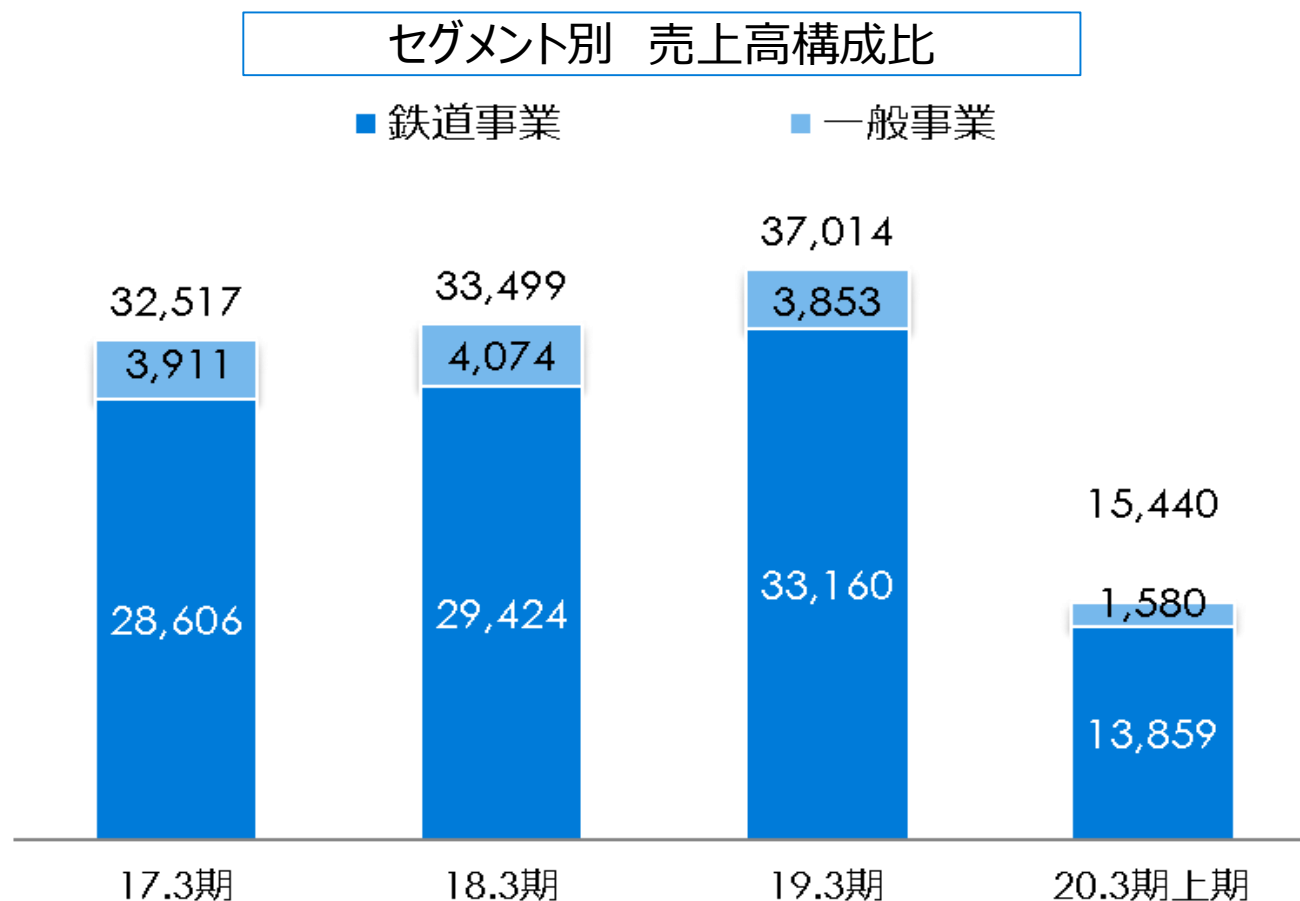
- 鉄道事業は、海外特需案件等がなくなり前期比減収も、業績予想は上回る
- 一般事業は、市場の需要低迷により前期比減収も、業績予想は上回る
- 利益面では、減収に伴う売上総利益の減少により前期比で減益

金額単位 (百万円)	19/3期 2 Q実績	20/3期 2 Q 予想	20/3期 2 Q実績	前年同月比	業績予想 実績比
売上高	17,321	15,183	15,440	▲10.9%	+1.7%
鉄道事業	15,391	13,617	13,859	▲10.0%	+1.8%
一般事業	1,929	1,565	1,580	▲18.1%	+1.0%
売上総利益 (売上高利益率)	2,253 (13.0%)	1,737 (11.4%)	1,845 (12.0%)	▲18.1%	+6.2%
営業利益 (売上高利益率)	408 (2.4%)	▲42 (-)	66 (0.4%)	▲83.8%	-
経常利益 (売上高利益率)	478 (2.8%)	10 (0.1%)	120 (0.8%)	▲74.8%	+1,100.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (売上高利益率)	328 (1.9%)	16 (0.1%)	84 (0.5%)	▲74.3%	+425.0%

- 売掛金の回収と買掛金の支払により流動資産と流動負債が減少
- 上期の利益により株主資本・純資産が増加

金額単位 (百万円)	2019/3期実績	20/3期2Q実績	前期末比
【資産の部】			
流動資産	23,062	18,846	▲18.3%
固定資産	3,372	3,216	▲4.6%
有形固定資産	75	66	▲11.4%
無形固定資産	313	282	▲9.8%
投資その他の資産	2,983	2,867	▲3.9%
資産合計	26,435	22,063	▲16.5%
【負債の部】			
流動負債	17,026	12,435	▲27.0%
固定負債	998	972	▲2.6%
負債合計	18,024	13,408	▲25.6%
【純資産の部】			
株主資本	7,912	8,228	+4.0%
その他の包括利益累計額	498	426	▲14.4%
純資産合計	8,411	8,655	+2.9%
負債純資産合計	26,435	22,063	▲16.5%

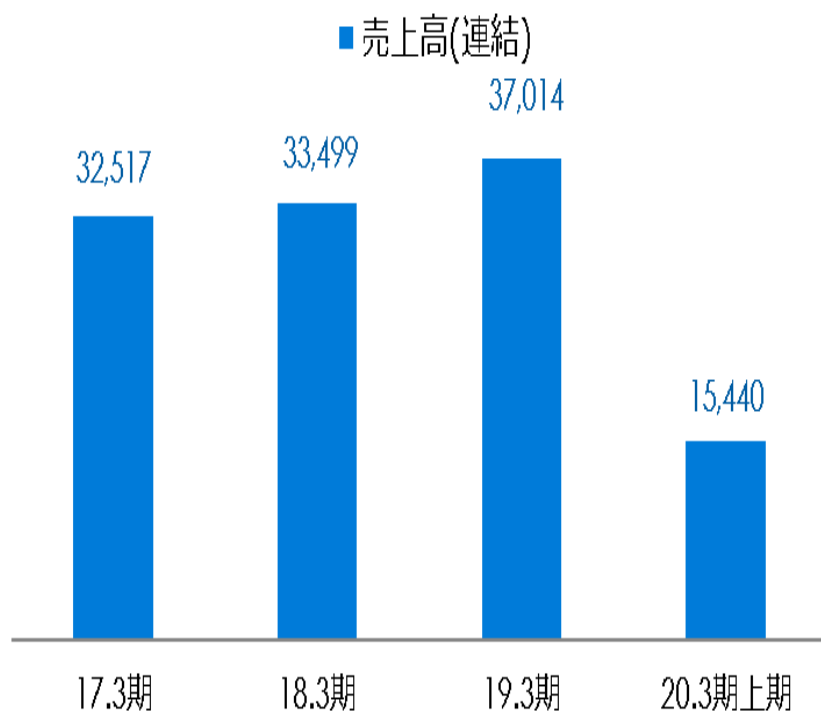
■ セグメント別では鉄道事業が業績を牽引、通期業績は下期偏重型



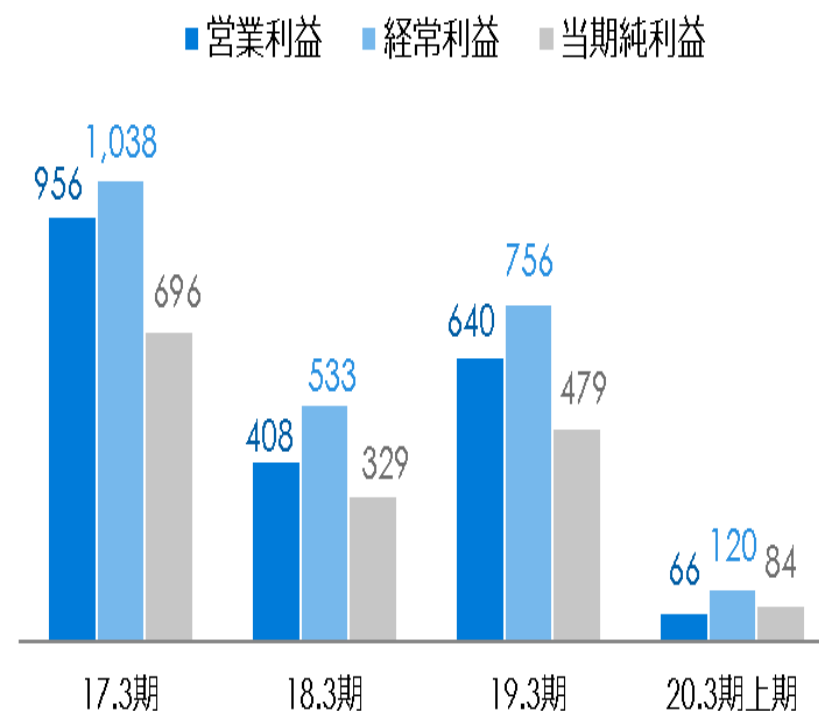
- ・ 鉄道事業は、鉄道事業者や車両メーカー等に車体用品、電気用品等を販売
- ・ 一般事業は、鉄道業界以外の産業機器メーカー等に電子部品等を販売

- 第2四半期予想は達成も、通期業績は下期偏重型の構図
- 利益の推移は、単体は比較的安定的ながら、海外子会社業績の影響を受けて上下する傾向にある

売上高の推移 (百万円)



利益の推移 (百万円)





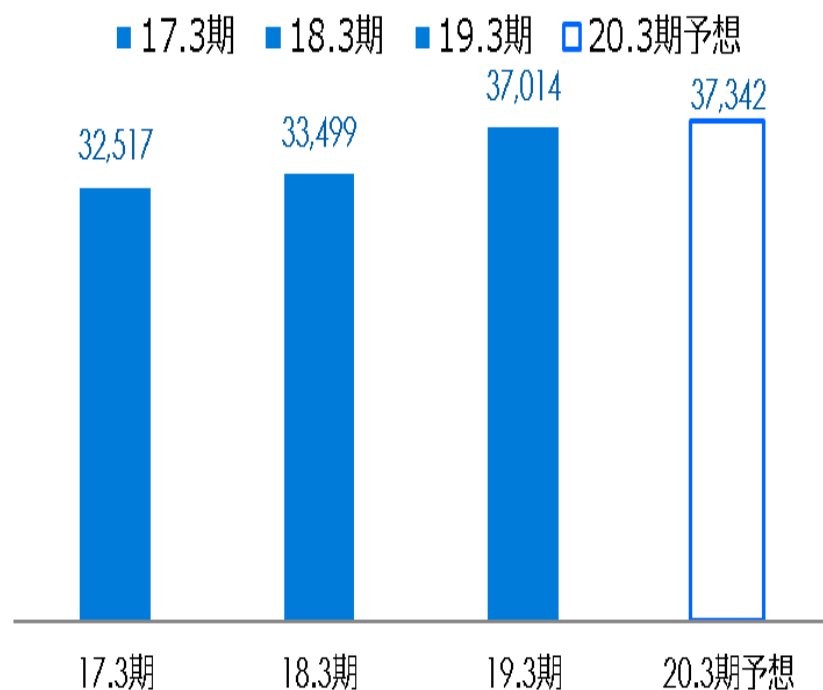
6. 2020年3月期 業績予想・配当予想

- 鉄道事業は、前期の特需案件終了もあり減収予想
- 一般事業は、産業機器分野の需要回復期待や、新商材の拡販等で増収予想
- 売上高は増収予想も、案件による利益率の相違で売上総利益以下は減益予想

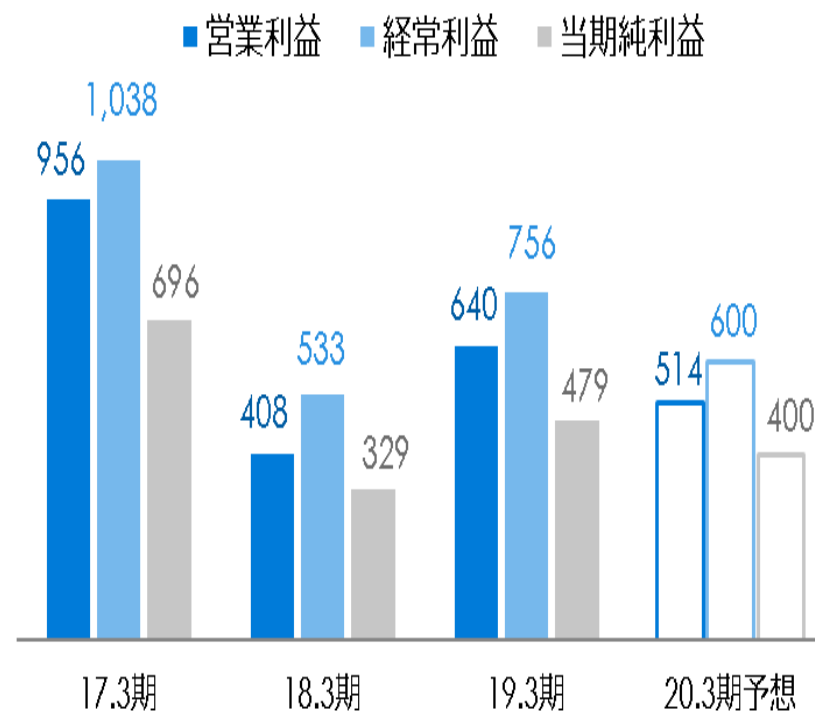
金額単位 (百万円)	2019/3期 実績	2020/3期 予想	前期比
売上高	37,014	37,342	+0.9%
鉄道事業	33,161	32,695	▲1.4%
一般事業	3,853	4,646	+20.6%
売上総利益 (売上高利益率)	4,431 (12.0%)	4,221 (11.3%)	▲4.7%
営業利益 (売上高利益率)	640 (1.7%)	514 (1.4%)	▲19.6%
経常利益 (売上高利益率)	756 (2.0%)	600 (1.6%)	▲20.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (売上高利益率)	479 (1.3%)	400 (1.1%)	▲16.5%

- 下期偏重型ながら、通期業績予想どおりの推移見込み
- 利益の推移は、案件による利益率の違いや、海外子会社業績等により年度毎に上下し、前期比で減益の予想

売上高の推移 (百万円)



利益の推移 (百万円)



当社は、株主に対する利益還元と内部留保の充実を総合的に勘案し、収益性、成長性、企業体質の強化を考慮しつつ、安定的な配当の継続維持を基本方針としております。

	2018/3期	2019/3期	2020/3期(予想)
1株当たり年間配当額	15.00円	25.00円	25.00円
配当金総額(合計)	38百万円	64百万円	—
配当性向(連結)	12.1%	13.5%	—

ご清聴、ありがとうございました。

株式会社ヤシマキザイ

2020年3月期第2四半期 決算説明会

（会場：公益社団法人日本証券アナリスト協会）



【ご注意事項】

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる可能性があります。

上場取引所：東証第二部 証券コード：7677

<https://www.yashima-co.co.jp/>

【お問い合わせ先】 経営企画室

TEL) : 03-4218-0096

E-mail) : contact-ir@yashima-co.co.jp

(会場：公益社団法人日本証券アナリスト協会)